



# 教会報ほんじよ

〒130-0011 東京都墨田区石原 4-37-2 TEL : 03-3623-6753 FAX : 03-5610-1732  
http://www.catholic-honjyo-church.org

## INDEX

- 「福音視点」  
主任司祭 パウロ 豊島 治
- 「満二十歳の祝福」
- 「訃報・ヨセフ阿部眞理修道士」
- 「司牧評議会からのお知らせ」
- その他



### 「福音視点」

主任司祭 パウロ 豊島 治

二月のご挨拶を申し上げます。

二月は十一日に世界病者の日を迎えます。昨年末逝去された名誉教皇ベネディクト十六世の奉仕職辞任意向が二〇一三年のこの日に伝えられました。病者への慈しみと関わる全ての人への保護を願う日であります。四谷の売店では起源であるルルドに纏わるものについての問合せが多いそうです。現在はルルドの水で作られたという飴は「パステイユ」という名称で人気です。教皇フランシスコは今年の世界病者の日メッセージで、病者の癒し手はマリアであることと、友愛のきずなの構築を呼びかけて結びとされました。

東京教区行事で感染対策なしの形式で行われたのは二〇二〇年二月十一日の「世界病者のミサ（担当・福祉委員会豊島神父）」が最後でした。それから約三年、カテドラルにおいても私たちの集いについても教会のコロナ対策の今後はどうすべきか複雑なものがあります。後遺症を抱えて生活ができない人がいらっしやる。一方で無症状の方が感染拡大の役割を持ってしまうケースもありますし、社会機能を円滑に進める必要も増してきました。



(大司教の代理で「世界病者の日ミサ」を主司式した豊島神父 2018年)  
出典は教区ニュースの2018年3月号

下町宣教協力体でも司牧評議会でも、今後のコロナ対策体制についても、今後の議論が続いています。本所教会の基線は隣りの幼稚園の警戒レベルに合わせることにありますが、大前提は教皇訪日においてテーマにしたように「全てのいのちを大切に」の呼びかけがあります。一月二十二日の日本テレビの報道でも指摘されていきましたが、マスクにしても所謂五類に移行する課題においても「もう大丈夫だから」という単純な話しではないという点は踏まえていなければなりません。みんなが同じ形態をとって全体を守っていくというスタイルから、各人がある程度の個人の責任を担って自分と他者を守るとい

うスタイルに切り替えたということ。自分のこと、他者のことを考えて生きていかなければならないのです。

一月十六日に本所教会の子どもたちの霊的な支えでいらした阿部眞理修道士が帰天されました。癌との闘病の日々はちょうどコロナの期間と重なります。SNSと対面の両方で思いやる信仰を毎日伝えてくださったことは子どもたちにとって恵みです。若者にとって親しい人の死は心的な喪失感を与えます。教会に訃報から日曜日まで祈りのスペースを設けていたただき故人との同伴の場としました（本教会報に詳細記載）。他教会からも祈りにきた青年がいたと聞きます。思いやりの輪が広がっています。

社会のコロナ対策も転換点を迎えています。実際の三年、新しく解った事があったから変える事項もあれば、科学的にはわかっているけれども、社会的選択として変わる事項の二つが混ざっていることも忘れずに過ごすこととなりますが、新しい福音を見出したことも加えられればと思います。

